

まちづくりの事例研究

長野県 小布施町



日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会

視察会メンバー

■平成19年10月26日（金） 11：00～17：00
～27日（土） 10：00～14：00



小布施町について

小布施町の位置



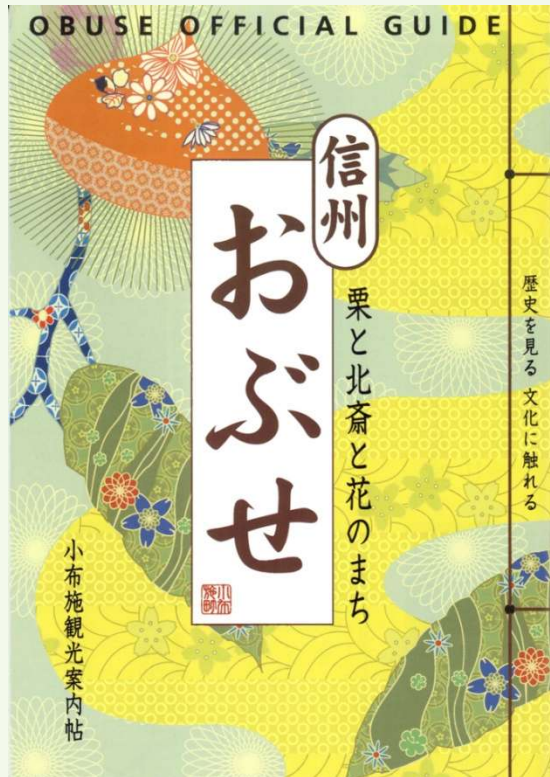
江戸時代は、千曲川の船運と街道の合流点の地勢を活かし、六斎市が催されていた北信濃の経済の中心地で、寒暖が激しい気候を生かした栗栽培が古くから行われ、幕府への献上栗ともなっていました。明治では殖産興業の中核となった養蚕地帯を背景に、製糸産業により栄えていました。

江戸時代、枅一酒造市村家12代高井鴻山は江戸で葛飾北斎に出会い、これが切っ掛けで、晩年、北斎は小布施を訪れ、多数の肉筆画、祭り屋台などを残します。これを収蔵する美術館、北斎館を開館（1976年、昭和51年）し、マスコミなどに取り上げられ、全国より多くの人を訪れました。その後、現在、小布施堂界隈と呼ばれている街区において、枅一酒造場の改築（78）、小布施堂栗菓子工場（81）、栗の小径（85）、長野信金（85）、高井鴻山記念館移築（86）、その他民間宅地（84～）を修景する事業を官民協働で行っています。また、町では昭和56年（81）に、「緑と水と歴史の町、暮らしに文化が息づく町、特色ある産業の町、そこに生きる喜びと誇りを感じる町」を将来像とした総合計画を策定し、昭和61年（86）の後期基本計画では、新たに「うるおいのある美しい町」を掲げ、「うるおいのあるまち環境デザイン協力基準」を設けています。93年には、特産品の加工・製造・販売、「ゲストハウス小布施」の運営などを行う第三セクター方式による町づくり会社「ア・ラ・小布施」を設立。さらに、音楽祭や映画祭、アートからマラソンまで祭りやイベントも多彩で、年間120万人近い観光客が訪れる、魅力のある地域づくりを実現しています。

小布施町の視察調査について

- ・小布施堂 市村社長ヒアリング
- ・小布施堂周辺・おぶせミュージアム～岩松院など見学
- ・まちづくり会社“ア・ラ・小布施”が経営するペンションに宿泊(ア・ラ・小布施の企画部長 関悦子さんにご挨拶)

おぶせオフィシャルガイドより



小布施には古くから
受け継がれた郷土料理や
「小布施丸なす」「小布施栗」を
はじめとする特産の農作物など
小布施の風土が育てたものが多くあります。
スローフードが見直されている昨今、
「まさにしかない」ものこそ大切する
食の産業を育成し、
訪れる人に喜ばれるように努めています。

食

Food of Obuse-1



上左／東町祭屋台天井絵「龍」図
上右／東町祭屋台天井絵「鳳凰」図
下左／上町祭屋台天井絵「怒濤」図(男浪)
下右／上町祭屋台天井絵「怒濤」図(女浪)

まちづくり会社 “ア・ラ・小布施”

○小布施のまちづくりの方向

栗と北斎と花

連携・協力

町民主体のまちづくり会社

ア・ラ・小布施

街並みづくり・イベント企画・ペンション経営等

小布施堂本店前

小布施堂本店前。建物を通りからセットバックし、木や花を植え、歩く人に気持ちの良い空間となっている。



小布施堂のレストラン 蔵部

蔵づくりの建物を修復し、レストランを営業している。



酒造工場

江戸時代から残る酒造工場の煙突がシンボルとなっている。



小布施の街並み 街路

木や花が多く、歩いて気持ちの良い空間となっている。
。



小布施の街並み 交番



民家風にデザインされた交番。公共施設のデザインにも工夫が凝らされている。

ゲストハウス小布施 ア・ラ・小布施経営

ア・ラ・小布施が経営する4部屋の隠れ家的ゲストハウス



民間の商店・住宅等

民間の住宅や商店でも、通りから5m程セットバックして建物を建て、空間を豊かに演出している。



小布施の街のデザイン

マンホールの蓋は北斎の絵でデザインされている。舗装材は栗の木の廃材を利用している。



小布施町調査ルート

071026 ~ 27

民俗資料館

① 小布施町視察ルート等（小布施堂・宿泊施設など）

1. 小布施駅到着



2. 小布施町商工会館（観光案内所）



3. 栗ヶ丘小



4. 小布施町交番



5. 富田酒造前



小布施駅から、小布施町商工会館（観光案内所）、栗ヶ丘小、富田酒造前を経て、小布施堂まで、約750mを徒歩で行きました。

町や町に在住している方々などが出資している、町の活性化へ取り組む株式会社、といった収益性を求めないところはNPOに近い。ここが経営するゲストハウスに投宿。企画部長で、出資者でもある運営の中枢、関悦子さんに挨拶に伺いました。

10. ゲストハウス小布施



6. 小布施堂前（国道403号沿い）



7. 小布施堂本店、そして…会談へ



小布施堂本店の食事処で美味しい食事をいただき、小布施堂主人（社長）市村氏に、その奥の住居でもある民家で、小布施のまちづくり、小布施堂主人（社長）市村氏に、奥に実際に暮らしている民家でお話を聞きました。

市村氏には、会談の後、今春オープンしたばかりのホテル、桝一客殿を案内していただき、引き続きロビーでお話を伺いました。

11. おぶせミュージアム



ギヤマン横丁を岩松院へ
雨の中、北斎の天井画がある岩松院へ、小布施中前から、往復2.6kmの道程を歩きました。岩松院



改修中の民家



マンホールの蓋



8. 大日通



蔵部



9. 蔵部に夕食と…美味しい



0 100m

小布施堂 市村社長ヒアリング

- 市村社長は小布施のまちづくりの中心的な人物。
- 「これからは日本も、上海などの東アジアの都市との競争を勝ち抜いていかなければならない。」
- 「国を超えた交流や連携、競争が進んでいく中で、世界的に活動している人達の拠点となることが重要である。」
- 「グローバルに活動している人達は、上海・香港であろうが、東京であろうが、自分が良いと思う場所を拠点としている。その人達を選ぶものさしとして、その場所、まち、周辺の自然環境、歴史・文化などのクオリティーが決め手になっている」
- 「日本の特色ある都市が世界の中で活性化していくためには、先ず、国の顔となる都市が、しっかりとグローバルな人達を受け止めていかなければならない。」
- 「地方からみても、首都東京・日本橋の街づくりの成否は、大変重要なことだ。是非頑張って進めて欲しい。」と日本橋地域の街づくりの活動に対してエールを送って頂きました。

ヒアリング風

